

### 【nv-g4-001 脚注 3：暴力性の有無に関する分析方法】

1. 分析対象：国際報道であると判断されたすべての記事

2. 目的・意図

この列を設けた目的は、暴力性を含む出来事を取り上げた記事が記事全体に対しどれだけの割合を占めているのかを見るためである。ここでの「暴力性」とは、物理的な(physicalな)暴力行為を指す。これにより、暴力性を含む出来事ほど記事として取り上げられやすいのか、といった傾向・仮説を探ることができる。

3. 分析方法

暴力性が有るといえる記事の条件は、原則として

「人間や他の動物が、他の人間や物（建物や動物を含む）に対して物理的な破壊を伴う暴力行為を行った出来事」

を取り上げた記事で、すべて見出しに書かれている情報から判断する。

※1：暴力行為の大多数は何らかの武器を用いた暴力行為だろうが、素手の場合も実害が出ていれば暴力性はあるとする。分かりやすいキーワードの例としては、「殺害」、「爆破」、「襲撃」、「虐殺」などがある。また、考えられるものとして「拉致・拘束」も暴力行為に含める。

※2：事故についても暴力性はあるとする

4. 具体例

記事見出しの例	暴力性の有無	理由
『自爆テロ 36人死亡』	あり	自爆という暴力を用いており、かつ死者という実害を出した出来事だから。
『〇〇で列車事故8人死亡』	あり	事故は何者かの故意があったかどうかわからないが、暴力性はあるとする。
『北朝鮮 弾道ミサイル発射成功』	無	実害が報告されていれば暴力性があるといえるが、この時点での実害は「予想されるもの」であるため、暴力性は無いとする。
『9.11テロ追悼式』	あり	この記事の核となる内容は「追悼」であり、その行為には当然暴力性は伴わない。しかしそもそも話題として取り上げられている事件が暴力性を伴うものであるため、この記事も暴力性はあると判断する。暴力性のあるいわゆる

“Bad”な事件だから取り上げられている、とも読み取ることができるからである。